

2021年2月21日第3主日

Chofu Christ Church

礼拝式次第

注) 賛美の最後の頌栄以外のアーメンは省く

| | | |
|-------|--------|----|
| 前奏 | | |
| 頌栄 | 新聖歌 60 | 起立 |
| 使徒信条 | 司会者朗読 | 起立 |
| 主の祈り | 司会者朗読 | 起立 |
| 開会祈祷 | | |
| 賛美 | 新聖歌 24 | |
| 交読 | 省略 | |
| 今月の賛美 | 省略 | |
| 今週の聖句 | 省略 | |

| | | |
|------|------------------------|----|
| 聖書 | Iサムエル5:1-12(p388) | |
| 説教 | 「神は生きておられる」 園 謙慈 牧師 | |
| 一斉祈祷 | | |
| 献金 | “主は今生きておられる” | |
| 感謝祈祷 | | |
| 頌栄 | 新聖歌 63 | 起立 |
| 祝祷 | | 起立 |
| 後奏 | | 起立 |
| 報告 | | |

●来週のメッセージ

- 【聖書】 Iサムエル6:1-16(p389)
- 【主題】 「問題解決先延ばしせず」
- 【説教】 園 謙慈 牧師
- 【新聖歌】 104 165

今週の聖句

《神の御前では誇れない》
「それは、どんな人間でも、
神のみまえに誇ることが
ないためである。」

Iコリント1章29節

●本日の礼拝後の予定

○

●今週の予定

◎聖書通読 22日(月)–28日(日)
土師記3-9章

○祈祷会 25日(木) 休会

●2/28日(日)の予定

○主日祈祷 — 賛美タイム —
○主日礼拝式[自主礼拝] 11:00
～録音のため～
※2月決算会計奉仕 13:00

礼拝式説教要約 【敗北から学ぶこと】 サムエル記上4:19~22

イスラエルの戦いの中で、「栄光が去った」と言われていることから、大切な教訓を学びたい。

カナンの地に定住したイスラエルの民にとって最大の敵はペリシテ人であった。彼らは海岸に近い5つの町を支配下に置く強い民。戦場は海から東に15km付近の丘陵地帯。イスラエルはエベネゼルに、ペリシテ人はアペクに陣を敷き、にらみ合っていた。戦いはペリシテが優勢で、イスラエル軍は4千人を失った。民が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「なぜ主は我々を打ったのだろう」…「なぜ？」に対する答えがない。なのに即効性のある解決策を取った。イスラエルの長老たちは、神の箱があれば勝てるという短慮に走った。ヨシュア記7章に敗北の記録があり、比較すると大切な点が見えてくる。その時ヨシュアと長老たちは夕方まで悔い改めと悲しみを表明しながら、主に祈った。すると、主が応答され、約束を破った者がおり、罪のきよめが必要だと指摘された(ヨシュア7:10-13)。指示に従った結果、イスラエルは勝利を得た。敗北したら、敵ではなく、主に目を注ごう。主の望まれる道だったのか？罪の悔い改めが必要ではないのか？主に頼っていたのか？謙虚で平和な心でいたのか？砕かれた心で再出発しよう。

イスラエルの悪名高い祭司ホフニとピネハスが神の箱運搬の責任者なので、彼らは霊的指導者としては不適格であった。ペリシテ人は神の箱到着を知り恐れたが、全力でイスラエルに向かって行ったので3万人を倒し大勝利となった。ホフニとピネハスは殺され、神の箱は敵に奪われた。神の予告どおりとなった。この知らせを受けた高齢の祭司エリは首を折って死んだ。ピネハスの妻は、急な陣痛で男児を出産し亡くなった。言い残したのは息子の名で、イカボデ…「栄光がイスラエルから去った」(21節)という意味。何年も前から、神の栄光は失っていたが、やっと気づいた。栄光が去ったと認識することが、神の栄光(信仰回復への道)を取り戻す第一歩なのである。

◎(詩篇51:17)…敗北したら、主の前に出て悔改めよう。神の栄光は砕かれた心から始まるのだから。